

2024北区花火会ボランティア 参加レポート 東京三友国際学院

花火から始まる地域連携の輪 -多文化共生社会をめざして・はじめの第一歩-
東京三友国際学院 教務部 冨澤祐子

地域連携…したいけれど、どうやって…?



「北区花火会」? ボランティア募集?!

2020年に開校した本校にとっては、開校1年目がすでに「コロナ禍」。そんな荒波をなんとか乗り越え、ようやく去年からまとまった人数の卒業生を輩出することができるようになりました。現在は100名弱の学生が在籍（ネパール、中国、モンゴル、ミャンマー、台湾、ベトナム、ウズベキスタン…）し、日本語を学習、進学を目指して日々努力を続けています。

今年度から、法改正により日本語学校の管轄が法務省から文科省に移管したこともあり、国が目指す「多文化共生社会」実現の一助になれば、と地域連携を目指した活動への参加を模索していた折、この「北区花火会ボランティア」の募集を知りました。留学生（外国人）も「社会的存在」の一人として、日本社会のことを学び、文化体験をし、地域の人々と交流するきっかけを得られれば…と願い、思いきって事務局に問い合わせたところ、「留学生でもボランティア参加大丈夫です！ぜひ！」とご快諾いただき、団体申込みを決意しました。

参加にあたっては、まず校内（クラスごと・初級から上級まで全クラス）で①概要告知→募集プレゼンを教員が行い、直接参加を呼びかけました。運営委員会の田村様から教えていただいた情報をもとにYou Tubeで紹介されている昨年度の花火会の動画なども活用してPPTを作成、学生たちに趣旨や内容を紹介。「ボランティア」や「花火」という言葉や意味は知っていても、体験したことがない、という学生が多く、「日本の花火」はおろか、「花火」そのものを見たことがない、という学生も。結果、「日本の花火、見たい！ボランティアやってみたい！」と、18名近い学生が一次応募をしてくれました。

持続可能な学習体験へ

8月末に校内での応募を締め切り、9月19日に行われた「北区花火会ボランティア説明会」に引率予定教員の3名がオンライン参加。学校全体でもこの取り組みを支援していこう、という流れになりました。その後、校内で1回目の「事前学習会」を開催。せっかくこのような貴重な機会をいただけたので、今回の「ボランティア参加」を単なるイベントで終わらせるのではなく、留学生にとっての「学び」の体験に繋がりたい、地域連携の足がかりにしたい、翌年以降も続けられる持続可能な参加行事にしたい、という思いが強まってきました。結果、より深い学びに繋がられるように、ということで、事前学習を2回、事後学習会も行う、3か月にわたる学びのプログラムとして実施することになりました。

東京三友国際学院

(法務省告示校)

東京都北区東田端 1丁目7番2号

開校

2020.02

コロナ禍を乗り切る

増員

2024.07

120名枠への増員認定

現在

2024.10

在籍学生 92名

1回目の事前学習会開催にあたっては、まず主任の私自身がこの花火会の趣旨・歴史を深く理解する、知る、というところからスタート。北区在住でもなければ(中野区在住)東京出身でもない(岐阜県生まれ大阪育ち)私にとっては、そもそも「荒川放水100周年」がわからないという状況(笑)でした。荒川放水って何だ？ RED×BLUE、なぜに赤と青？というまったく無知の状態。教員自身が「荒川」と「隅田川」の関係を学ぶところからスタートしたのです。



荒川放水100周年の意義を知る

調べてみれば、隅田川が昔の荒川で、今の荒川は新しく作った川。赤水門は古い水門で、青水門は新しい水門。その100年の長い歴史は、荒川・隅田川周辺に暮らす人々にとっては当たり前知識なのかもしれませんが、私にとっては「へえ〜、そうだったのか…」とトリビア状態。水害に悩まされた長い歴史と新たな川を作ることと安心して暮らせる町づくりを目指した人々の苦労や関連施設の成り立ちを知れば知るほど、その新たな歴史の幕開けとなった100年前の放水の瞬間は、どれほど人々を歓喜させ、熱狂させた瞬間だったことだろう…と放水100年の重みをひしひし感じるようになりました。すごいタイミングでボランティアをさせていただくんだな…と。

無論、アジアの留学生の母国にも大小さまざまな河川があり、昔から水害を繰り返している地域もある…となれば、この荒川のドラマティックな歴史背景を理解することは、留学生らにとっても決して難しいことではない、むしろこの地域をふるさとのように身近に感じることができるはず、と確信し、事前学習の準備を始めました。

北区花火会・荒川の歴史を学ぶ学生

このプログラムには、来日間もない初級クラスから来日1年半になる上級クラスの学生まで、さまざまな日本語レベルの学生が参加表明をしました。そのため、事前学習は午前クラスの学生は放課後、午後クラスの学生は早く登校して参加できるよう、昼休みの時間(50分)に実施。1回目の事前学習会では、今回の花火会のポイントでもある「荒川放水100周年」の記念行事であることにちなみ、荒川と隅田川の歴史を学ぶとともに、11回目を迎える民間の力で開催している珍しい花火会であること、夏ではなく秋の花火であること、実施される場所や会場のイメージ、実際の花火会のプログラム(人気花火会社マルゴー、ドローンショーやパフォーマンスステージ、キッチンカー等々)についても紹介し、まずは「どんな花火会なのか？」を外枠の部分から説明していきました。

参加学生

SAI HTET MOE SAN

(サイ テー モーサン : ミャンマー)

HTOI SAN AUNG

(トエ サン アウン : ミャンマー)

CHEN WILLIAM

(チンカン : 中国香港)

ZHAO XUNYI

(チョウ シュンエキ : 中国)

WANG HUAYI

(オン ファイ : 中国)

MONGOLTUR OYUNTUNGALAG

(モンゴルトゥル オユントングラグ : モンゴル)

TRAN THUY DUONG

(チャン トゥー ズン : ベトナム)

KUMAL BIBEK

(クマル ビベク : ネパール)

BUDHATHOKI RIWAJ

(ブダトキ リワジ : ネパール)

BOHARA NISHA

(ボハラ ニサ : ネパール)

KHATRI ALISHA

(カトリ アリシャ : ネパール)

THAPA SABINA

(タパ サビナ : ネパール)

BASNET PABITRA

(バスネット パビトラ : ネパール)

引率教員

冨澤祐子

山口卓子

高月早苗

私たち日本人であれば、「花火」というとある程度のイメージがあり、説明は不要といってもいいかもしれませんが、花火を見たこともない留学生たち、特に初級レベルの学生たちにとっては、すべての言葉が「新出語彙（あたらしい言葉）」になります。ですから、一つひとつの言葉を写真やイラスト、あるいは「やさしい日本語」に直して説明しなければなりません。「キッチンカー」という一見英語のように聞こえる言葉でさえ、日本人が作った「カタカナ言葉」なので、それはこういうものです、という説明が必要になるのです。

留学生にとって学習が必要な語彙は「使用語彙」や「理解語彙」など、その使用度によって必須単語が否かに分かります。「椅子」は使用語彙ですが、「パイプ椅子」は理解できればいい言葉。「赤水門」や「青水門」といった固有名詞も覚えなくてもいいけれど、今回作業に携わるなら知っておいたほうがいい。こうした課外活動に参加するには必須語彙はもちろん、それ以外の「新しい言葉」をたくさん理解しておかなければなりません。そのために事前学習は欠かせませんが、「新しい言葉」を知り、その言葉を使用することがすなわち学生たちの語学力向上に繋がるので、大変有難い機会になりました。



申込から総括まで

校内締切

2024. 8.31

9/19

オンライン説明会

9/20

事前学習会①

9/27

事前学習会②

9/28

ボランティア当日

(川口エリア担当)

10/10

慰労会 (教員参加)

10/11

事後学習会

10/18

事後学習会つき

10/25~

レポートまとめ・共有

ボランティアへの抱負を言葉にする

この11回目の北区花火会がいかに魅力ある地域イベントであるか、ボランティアとしての心構えにも触れつつ、クイズ形式で楽しみながら確認を行い、参加希望者がメンバーとしての自覚をしっかり持てるよう、「参加にあたっての抱負」をメッセージシートに記入する、という試みにも挑戦しました。生まれて初めての花火に期待を膨らませる学生、(先生じゃない)日本人と話がしてみたい学生、ボランティアをする中で友達を作りたい学生…さまざまな学生たちの期待と願望がメッセージシートに表されました。

小さい頃に「ドラえもん」や「コナン」を見て育った留学生たち。日本に憧れ、日本語に興味を持ち、高校を卒業して、親元を離れて日本にやってきた学生が本校には多く在籍しています。アルバイトをしながら、塾に通いながら…日本での進学、将来は就職も…という夢や希望を持って日本で生活している彼らですが、なかなか「ホンモノの」日本文化に触れあう機会がありません。そんな彼らにとって、この『北区花火会』は間違いなく留学生活のスペシャルハイライトになる、と同時に、社会参加のきっかけになることが予感できる事前学習会になりました。

本番を前に…明日天気になあれ

9月28日の本番を控えた前日、学びの再確認と、待ち合わせや通行証などの細かい打ち合わせ、持ち物や注意事項の確認のため、二度目の事前学習会を実施しました。連日悪天候が続いていたため、当日の天候がどうなるのか…不安が拭えない中、「雨天決行」「荒天中止」を説明

したのち、「晴れるように！」と願いを込めて、みんなで「てるてる坊主」を作りました。今回の花火会で企画されたRADWIMPSの楽曲「スパークル」と花火のコラボ。みんなで歌を聴きながら作った「てるてる坊主」はなんとも愛らしく、学生たちの笑顔プラスで本当に当日は雨が止む気がしてきました。



教員自身も初参加の行事だったので、イメージを最大限に膨らませて、現地でおそらく使用するであろう「語彙」のクイズを行ったり、地図を確認したりしましたが、果たしてご迷惑をかけずに参加できるだろうか…学生は遅刻せずにちゃんと集まれるだろうか…不安はなかなか消えない前日となりました。今回、川口エリアが担当、と通達いただいていたメッセージの確認が遅れてしまったことで、学生にはいったん「赤羽エリア」で案内をしてしまったのが痛恨のミス、となりましたが(笑)、なんとか当日までに軌道修正ができました。

人生初花火…青春の1ページ

いよいよ花火会当日。前日まで天候に不安がありましたが、雨一滴降ることなく、作業は曇り空の下で行うことができました。スタッフの方々やボランティアの皆様にも大変親切に接していただき、学生たちも不安なくお手伝いをすることができました。椅子並べやステッカー貼りなど、軽作業とはいえミスがあってもいけないので、それなりに緊張感を持ってみな取り組んでいたように見えました。

学生たちにとっては、日本語で話しかけていただけることが何より嬉しいことで、そういった願いも叶い、また、ふだんクラスの違う学生同士も、同じ目標に向かって力を合わせて作業することで距離が近づいたようでした。作業後にピクニックシートを敷いて花火が上がるのを待ちながらお弁当をいただけた時間も彼らにとっては貴重な思い出の時間になったようです。



やがて空も暗くなり、打ち上げの時…500基のドローンも美しく夜空に煌めき、学生たちからは感嘆の声。カウントダウンで花火が上がると、大歓声となりました。ただ花火を見るだけでなく、言葉が足りない自分たちでも社会の役に立つことができた、しかもそれが異国の地、日本で…。想像以上の達成感をもって見上げる花火はまた格別だったのではないかと、思います。



東京三友国際学院
2024.9.28. 北区花火会ボランティア



